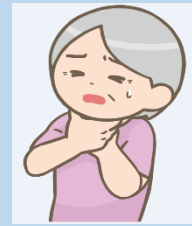


誤嚥・窒息時の対応

気道異物による窒息とは、食物などの異物が気道に詰まって息が出来ない状態です

窒息の発見 まず、窒息に気がつくこと。

食事中急に黙り込んだ・苦しそう・顔色が悪い
声が出せない・咳き込んでいる
親指と人差し指で喉をつかむ仕草の「窒息のサインをしている」



「窒息のサイン」

大声で応援を呼ぶ

119 番に通報・AED の準備・診療室、施設長へ連絡

119 番通報と異物除去

反応がある場合

- ・救助者が一人だけの場合は、119 番に通報する前に、異物除去を行う
- ・口の中に食べ物がある場合は、吐き出してもらう
- ・せきが出来る間は完全には詰まっていないので、「強い咳」をしてもらう
- ・腹部突き上げ法（ハイムリック法）や、背部叩打法を異物が取れるか、意識がなくなるまで続ける

背部叩打法

患者の身体を前かがみにして、後ろから手の平の基部で左右の肩甲骨の中間あたりを力強く何度も叩きます。



腹部突き上げ法

- ・患者の後ろにまわり、ウエスト付近に手を回します
- ・一方の手でへその位置を確認してもう一方の手で握りこぶしを作って親指側を患者のへその上でみぞおちより十分下に当てます。
- ・へそを確認した手で握りこぶしを握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。

腹部突き上げ法を行った場合は、腹部の内臓を痛める可能性があるため救急隊にその事を伝えるかすみやかに医師の診察を受けさせてください。

妊婦や高度な肥満者や乳児には、腹部突き上げは行いません。背部叩打のみを行います。



反応がない場合

心肺蘇生を開始

- ・ただちに胸骨圧迫を開始
- ・AED の使用

反応が戻るまで、または救急隊に引き継ぐまで続ける